町として、茶業振興協議会として今回の事態をどのようにとらえるか そして、今後の対応は。佐藤公敏茶振協会長に聞いた

県内産の生葉と飲用茶について、大規模な調査が実施された5月中旬。川根茶の結果はどちらも暫定規制値を下回るもので、川根茶の安全性が証明されたと胸をなで下ろしていました。

本町では5月22日、新茶の安全キャンペーンを展開し、その後、町ホームページに放射性物質調査の結果を掲載し「川根茶の安全性」を公表しました。

しかし政府は、新たに「荒茶と製茶についても規制対象とする」という方針を打ち出し、それを受けた静岡県では「二番茶から荒茶調査を実施」との方向性を示しました。また同時に、一番茶の製茶についても調査を実施すると発表しました。

二転三転する国・県の対応によって、町内の茶業関係者からは不安な声が相次いで聞かれます。静岡茶、川根茶に対し風評が広がっているのを感じています。

9日には藻科地区の本山茶で放射性物質が検出され、大々的に報道されました。一般的に、消費者は本山、牧之原、掛川、川根など茶産地ごとの意識というのは少なく、「静岡茶」という目線で茶を買い求めます。川根茶産地の数値が大丈夫だったからと言って油断できるものではありません。二番茶以降についても、情勢を注視していく必要があります。

川根本町茶業振興協議会
佐藤公敏会長

川根茶業協同組合では組合員を対象として、自主検査の費用を補助する取り組みが始まっています。島田市でも自主検査の助成制度を検討しているようです。

本町茶業振興協議会としてはそれらの動向を見守りながら、さらに県の動向も見据えながら、その都度適切な対処を講じていきます。

安心・安全な山のお茶・川根茶をお届けたい。そういった気持ちで、今後も全力で対応していきます。

5月22日に展開した「安心・安全な山のお茶・川根茶キャンペーンの様子。茶娘が観光客らに川根の新茶を振る舞った。

Topics

川根茶産地は自分たちの手で守る

川根茶業協同組合では、組合員が自主的に実施する放射性物質検査について、検査費用の一部（組合員一律一万円）を補助する取り組みを始めた。その目的などについて、事務局長の長島一也さんに聞いた。

自主検査を補助し安全を証明

静岡県が実施する放射能調査では、具体的にどこのポイントで調査したのかは公表しません。でも消費者の目線で考えれば「あなたの畑の茶は大丈夫？」というように、実際に茶を買う個々の畑について心配するケースが多いんですね。これは当然のことだと思います。

しかし茶農家ごと自主的に検査をするといっても、一検体につき約2万円の費用と茶2キロが必要になります。数種類の商品を調べようとすると、かなりの額になるんですね。その負担を少しでも軽減しようというのが今回の取り組みなんです。

風評被害が広がっている現在、通信販売などの個人消費者に対しては、説明すれば分かってもらえるからまだいいんです。しかし卸業者が相手ではそうはいきません。仮に放射性物質が出たら、そこの業者の商品全てに影響してしまいます。だからこそシビアだし、不安があればすぐに買い控えられます。確実な「安全の証明」が必要なんです。

卸業者には「川根茶産地を守ろう」なんていう意識はありません。うちがだめなら、ほかの産地から仕入れるだけなんです。

だからこそ、私たちは自分たちの力で、自分たちの茶を守る意識が大事なんです。川根茶を懇意にしてくださっている消費者の皆さんに、安心して味わってほしいから。そのためには確かな数値を出して、安全性を証明して、誠実に対応していく必要があります。それが、この川根茶産地というブランドを守ることに必ずつながります。

川根茶業協同組合
長島一也事務局長

丁寧な説明、心を込めた対応、今できることを精いっぱい…「一期一会」の心こそ、消費者に届けたい

取材を終えて

東京電力福島第一原子力発電所の原子力事故に端を発した今回の騒動。ある人が「国の対応は信用できない」と話したように、政府の方針は幾度も方向転換し、それを受けた静岡県も対応に戸惑う様子が見て取れた。

幸いなことに、川根茶産地はその安全性が証明された。検査結果が発表された翌日、あちこちに取材に出向くと、「本当に良かった。これで安心して眠ることができます」といった声が多く、この地域の人たちがどれほど不安な毎日を過ごしていたかを実感せずにはいられなかった。

「これで安心してお客さんに川根茶を届けることができる。これ以上の喜びはありません」といった人の笑顔に、こちらまで救われる思いがした。

しかし話はそう簡単には終わらない。6月9日、とうとう静岡県産の茶から規制値を超える放射性物質が検出された。本山茶産地の茶農家たちの落胆ぶりは、どれほどのものだろうか。想像もできない。

18日には、外国に輸出した静岡茶から規制値を超える放射性物質が検出されるなど、静岡茶産地全体を揺るがす大きな問題に発展しつつある。今後、さらに風評被害が広がっていく恐れもある。

そんな中で、今、私たち一人一人にできることは少ないかもしれない。たとえばお世話になっている人に川根茶を贈ってみる。それに「安心して飲んでくださいね」とメッセージを添えるのもいいかもしれない。町外の人と話す機会があったら、川根茶の魅力と安全性を紹介してもいいかもしれない。今こそ、日本一の川根茶という誇りと自覚を持って、私たち一人一人が広告塔となって、川根茶を「風評被害」から守る気持ちが必要な時だろう。

町の発展を支え、歴史を作り、人々の生きがいを生み出してきた川根茶。今度は私たちの力で、この町の「宝」を守りたい。

右上の写真の「一期一会」は、石山貴美夫さん宅の茶工場に掲げてある言葉だ。「茶作りはいつも一期一会。同じお茶とは二度と巡り会えない。だからこそ、丹精込めて、心を込めて、お茶と向き合うことができるんです」。そんな川根茶に情熱を燃やす人たちの心をこそ、広く伝えていきたい。それができるのは、ここに暮らし、川根茶と共に生きる、私たち一人一人にほかならない。

安全と安心を届けたい　終

※本記事は5月下旬から6月18日までに公表された情報を基に記述しています。静岡茶への放射能汚染の影響については、今後の情勢を注意深く見守る必要があります。